

頃藤 商店・キャンプ場経営
竹内恒子さん（六十代）



竹内さん

夢を見ているようだった

台風が予報では今夜通過するという日の日中、私たち家族はキャンプ場に赴いて、台風に備えてお客様に貸し出しての寝具を高いところに上げたり、管理事務所の大事なものは自宅へ持ち帰ったり、あと流されないようにつて休憩所にあったテールとかイスも奥の方へ全部運んだり、縛りつけたり。そのときは川なんか水量も少なくて穏やかだったので、多少浸水はしちゃうかもしれないけど大丈夫だよねみたいな感じではいたんですけど、一応備えて夜は危ないから主人たちとこっち（自宅）へ避難していたんですよね。

台風が来た当日朝早く、五時頃かな、主人とキャンプ場の様子を見に行ったときには、途中の道も陥没して落ちちゃって、通行できないようになって。前見たら津波の後のように全然風景が変わって、ほとんどのものがなくなっちゃってる状態。なんか夢でも見てるような状態でしたね。バンガローも三十五棟ぐらい流されちゃったし、既存の管理事務所とか、トイレ、炊事場、シャワールーム、全部がもう姿が消えてなくなっちゃって。前あった管理事務所なんかは、二メートルぐらいの深さの大きな穴が開いて、地面に。

キャンプ場のどこに何があったかまるっきりわからない状態になってましたね。桜の木、アカシアの木、土手もあって趣があるキャンプ場だったんですが、それが一掃されて河原みたいになっちゃって。電柱も全部なぎ倒されて折れて、凄い状況でしたね。

過去にも受けた水害

昭和六十一年と二〇一一年のときにも水害の被害があったので、多少覚悟というか、やっぱり浸水したり被害は出るのかなっていうのはあったんですけど、なくなっちゃう想像はしてなかったですね。二〇一一年のとき、四十棟近かったバンガローがほとんど傾いたり流されて、大体一メートル管理事務所が浸水して大変だったんです。九

月二十一日の台風一五号ですね。震災があった年。昭和六十一年のときは両親が管理人やあって、台風どうだったって電話かけたら、どうだったなんていうもんじゃないよって。その時もバンガローが五棟ぐらい流されて、いろんなものが傾いたり、えぐられたり、結構被災したんですね。だから大きな水害は二〇一九年で三回目だったんです。

危険と隣り合わせの自然

（キャンプ場は）五十年続けてきたんですよね。風光明媚っていうか山と川と電車と。だから普段はすごい恩恵をいただいて、その自然でも、やっぱりリスクが背中合わせだから、常に自然災害の恐怖っていうか、天気予報はいつも確認してる。雨が降る確率とか天気急変とか、熱帯低気圧が出たっていうと、台風に変わるか常にチェックして。だから台風が来るっていうときには、お客様にキャンセルしてくださいって逆にお願ひして。二〇二二年の八月十三日のお盆の時もすごいかき入れ時だったんですけど、台風が来るっていうのありましたよね。結果的には大したことなかったのですが、一応お客様からのキャンセルの電話受けて、連絡がない方にはこちらから連絡してお客様ゼロにしたんですよ。

災害後に感じた繋がり

片付けは大変でした。駅前のお店も三ヶ月ぐらいは休業して毎日復旧作業に家族で行って。キャンプのお客様も心配して駆けつけてくれたり、泥出しとか畳運ぶの手伝ってくださったんですよ。妹達家族や親戚、友人、周りの人たちに本当に助けていただきました。

二〇一一年九月に被災して、それから一ヶ月ぐらいに、自分はトイレと水だけあればいいから、来て使ってあげることしかできないからって、百人ぐらいのお客様がキャンプ場を訪れてくれて。まだ片付けは全部終わってない、バンガローとかも傾いている状態でしたが励まされました。八ヶ月ぐらいかかってバンガローの傾きとか直してお掃除して。

二〇一九年のときにもやっぱりお客様たちが代わる代わる来てくださった。電柱が三本倒れちゃって、電柱の撤去も民家が優先で、後回しにされちゃって。電気使えなくて結構大変だったんです。そしたらキャンプのお客様が発電機持ってきて、これ使ってくださいって置いてってくださいました。翌年（二〇二〇年）の十一月にはプレオープンという形で、十日間だけ秋口にやってみたんです。去年（二〇二一年）の四月三日に正式オープン。バンガローとかはもうないので、テント持ち込みのオートキャンプのお客様だけなんです

けど。

水害になった直後からいろんな所から心配してすぐに駆けつけてくれた方々、物資を送ってくれた方、本当に自分のことのように心配してくれる方がたくさんいらっしゃって。自分はもう当時はキャンプ場が再開できるなんて思えなかったですからね。また再開を待ってますとかコメントくれたり電話もくれたり、実際に物資を送ってくれたり。ずいぶん支えていただいたのはすごくありがたいですね。

あと年明けてからなんですけど常総市のボランティアの方も何回もいろんな形で手伝いで来てくださった。倒れそうになってた木を切ってくれたりとか、バンガローとして使用していた貨物列車も横倒しになってたのを片付けてくれたりとか。すごくありがたかったですね。

いろいろな形で支えられて再開できた

やっぱり本当に皆さんに支えられてるって感じですよ。いろんな方にいろんな形でご支援いただいて。あとはね、キャンプ場が再開できたのも補助金支援制度っていうのもありますよね。利用してなかったら再開はなかなか自力ではできないですよ。

今思うとよくここまで再開できたなって、しみじみ思いますよね。あの当時は考えられなかった。

ゴミを一個取るって言ったって人力ですごく大変なんですよね。もう何もかも捨ててどこかに行けたらどんなに楽かなって、先思うといつ終わるのかなってというのがありましたもんね。

管理事務所の中の駄菓子コーナーに「小さな駄菓子屋さん」って看板かかってたんです。これだけ戻ってきたんです。奇跡なの。全部流されちゃったのに、辰野口公園のところにこの看板が流れていてたらしくて、それをある人が何かに載せたのかな、これ落ちてたって。そしたらそれを見た常連の方が、その人に連絡して、自分がキャンプ場に届けてあげますって言って。

実際の惨状がわかんないですよ、一部一部しか写真に撮れない。全体像が。写真はいろんなものが流されちゃった後なんですよ。



被災後のキャンプ場の様子